

がん教育と性に関する指導等を通じた健康教育の推進
～外部講師を活用した効果的な指導の在り方～

鹿屋市立鹿屋東中学校 養護教諭 平山 恵美

目 次

| | | |
|---|------------------|---|
| 1 | 研究主題 | 1 |
| 2 | 主題設定の理由 | 1 |
| | (1) がん教育の背景 | |
| | (2) 性に関する指導から | |
| | (3) 本校の健康教育の位置付け | |
| | (4) 生徒の実態 | |
| 3 | 研究の仮説 | 2 |
| 4 | 研究の内容 | 2 |
| 5 | 研究の実際 | 3 |
| | (1) 2年 がん教育 | |
| | (2) 性に関する指導 | |
| | (3) 3年 血液講話 | |
| | (4) 家庭との連携 | |
| 6 | 成果と課題 | 8 |
| | (1) 成果 | |
| | (2) 課題 | |
| 7 | おわりに | 9 |

〔引用・参考文献〕

- | | | |
|------------------------------------|-----------|-------|
| ・『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編』 | 文部科学省 | 平成29年 |
| ・『外部講師を用いたがん教育ガイドライン』 | 文部科学省 | 平成28年 |
| ・『改訂「生きる力」を育む中学校保健教育の手引』 | 文部科学省 | 令和2年 |
| ・『がん教育における配慮事項ガイドライン』 | 全国がん患者連合会 | 令和2年 |
| ・『令和3・4年度鹿屋市研究協力校「学力向上」鹿屋東中学校研究紀要』 | | 令和4年 |
| ・『令和3・4年度鹿屋市研究協力校「情報教育」笠野原小学校研究紀要』 | | 令和4年 |

1 研究主題

がん教育と性に関する指導等を通じた健康教育の推進
～外部講師を活用した効果的な指導の在り方～

2 主題設定の理由

(1) がん教育の背景

がん教育は、健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん患者や家族などのがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育である。

がん → 国の健康課題：生涯のうち国民の二人に一人がかかると推測される



- ★ がん対策基本法（平成28年12月16日改正）第23条 がんに関する教育の推進
- ★ 第3期がん対策推進基本計画（平成29年度からの6年間）

→ 医師やがん経験者等を外部講師として活用し、がん教育の更なる充実を図る。

中学校学習指導要領（平成29年告示）の保健分野において、「がんについても取り扱うものとする」と示され、令和3年度から中学校でのがん教育が全面実施となった。

がん教育の目標

① がんについて正しく理解することができるようにする

がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・検診等について関心をもち、正しい知識を身に付け、適切に対処できる実践力を育成する。また、がんを通じて様々な病気についても理解を深め、健康の保持増進に資する

② 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする

がんについて学ぶことや、がんと向き合う人々と触れ合うことを通じて、自他の健康と命の大切さに気付き、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度を育成する。

【学校におけるがん教育の在り方について（報告）平成27年3月文部科学省】

【外部講師を活用したがん教育における留意点】

- がんに関する科学的根拠に基づいた理解をねらいとした場合
⇒ 専門的な内容を含むため、学校医、がん専門医など医療従事者による指導が効果的
- 健康や命の大切さをねらいとした場合
⇒ がん患者やがん経験者による指導が効果的

(2) 性に関する指導から

近年の少子高齢化、情報化、国際化、価値観の多様化等の社会変化を背景として、学校全体での「性に関する指導」の一層の充実が求められている。中でも喫緊の課題として、性犯罪・性暴力対策の強化が関係府省庁会議で決定しており、方針（概要）は次のとおりである。

- 性犯罪・性暴力は、被害者の尊厳を踏みにじる行為であり、心身に長期にわたる深刻な影響を及ぼすことから性犯罪・性暴力に向けた取組や被害者支援を強化していく必要。
- 性犯罪・性暴力の根絶を求める社会的気運の高まり。
- 性犯罪・性暴力の加害者・被害者・傍観者にさせないための取組が必要。また、子供の発達段階や被害者の多様性等に配慮したきめ細かな対応が必要。

⇒ 令和2年度から4年度までの3年間 性犯罪・性暴力対策の「集中強化期間」

(3) 本校の健康教育の位置付け

本校の学校教育目標は「向学の意気に燃え、心身ともに健康で、たくましく生きぬく生徒の育成」である。これを具現化するための学校保健目標は「自他の心身の健康課題に気付き、健康を適切に管理できる生徒の育成」である。本年度の重点項目の一つに健康教育の充実を掲げ、がん教育や性に関する指導等を通して、生命尊重や健康に対する正しい理解と態度を育成することとしている。また、カリキュラムマネジメント表を基に、道徳を含む各教科、生徒指導、特別活動、体験的活動、家庭・地域・関係機関と連携を図りながら、全教育活動を通じて、生命尊重、健康重視の啓発を行っている。



(4) 生徒の実態

本校は生徒数933人、29学級、職員61人の大規模校である。今年度は新型コロナウイルス等の感染症対策を講じながら様々な活動を実施しており、特に部活動では地区や県大会において優秀な成績を収めている。

地域の状況として、鹿屋市の中心街を校区とし、青少年の教育に課題がある。生徒の中には、他校の生徒や高校生と交際している者、SNSの利用を通じて見知らぬ人と連絡を取る者がみられるため、性犯罪に対する知識等を身に付けさせる必要がある。また、体の性と心の性が一致しない生徒がいることから、今年度、制服を学ランタイプとセーラータイプの2種類から選べるように校則を変更したり、更衣やトイレ等の配慮を行ったりしている。

3 研究の仮説

| | |
|-----|--|
| 仮説Ⅰ | がん教育や性に関する指導等において、外部講師を活用し、専門性を生かした指導を行うことによって、正しい知識が身に付き、自他の健康や命の大切さについて主体的に考え、現在及び将来において、健康な生活を築こうとする態度を身に付けられるのではないか。 |
| 仮説Ⅱ | 発達段階や実態に応じた指導を行うことによって、健康に係る学習課題を自分事として捉え、健康の保持増進のため、適切な行動選択と意思決定につながるのではないか。 |
| 仮説Ⅲ | 保護者へがんや性に関する指導等の内容を伝え、家族で対話が増えることによって、生徒が家庭においても健康や命の大切さについて学び続け、健康的な生活を実践することができるのではないか。 |

4 研究の内容

(1) 2年 がん教育

ア 担任や副担任による事前授業 令和4年9月14日（水）道徳1時間

イ がん経験者による「いのちの授業」 令和4年10月6日（木）学級活動1時間

(2) 性に関する指導

【1学期】※全学年T・Tによる一斉授業を行った。

ア 1年 性に関する指導「性の多様性」 令和4年7月12日（火）学級活動1時間

イ 2年 性に関する指導「望ましい男女交際」 令和4年7月14日（木）学級活動1時間

ウ 3年 性に関する指導「思春期の心とからだ」 令和4年7月14日（木）学級活動1時間

【2学期】

- ア 1年 性に関する指導「デートDV」 令和4年11月15日（火）保健体育1 学級活動1
- イ 2年 性に関する指導「生命誕生」 令和4年11月16日（水）保健体育1 学級活動1
- ウ 3年 性に関する指導「責任ある行動」 令和4年11月18日（金）保健体育1 学級活動1

(3) 関連するその他の取組

- ア 1年 薬物乱用防止教室 令和4年6月22日（水）講師：学校薬剤師 学級活動1時間
- イ 3年 血液講話 令和4年11月30日（水）講師：学校薬剤師 総合的な学習1時間

(4) 家庭との連携

- ア 学校保健委員会 年3回（7月，11月，2月）
- イ 保健便り（毎月1回発行）及び学校保健委員会便り（年3回発行）

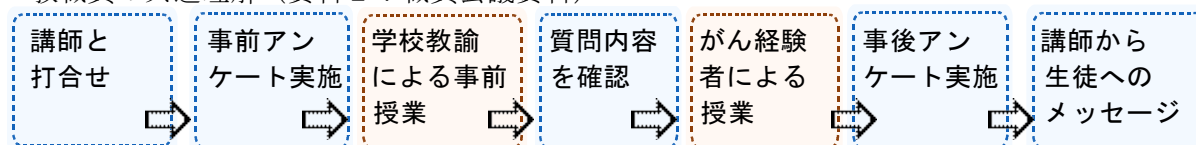
(5) 校内研修

- ア 令和2年度「性的マイノリティへの正しい理解」講師：県人権同和教育対策課
- イ 令和3年度「LGBTに関する研修」講師：Rinかごしま 山田健二先生，串間直紘先生
- ウ 令和3年度3学期職員会議でがん教育資料配布 ※網掛けの取組については今回省略する。

5 研究の実際

(1) 2年 がん教育

ア 教職員の共通理解（資料2：職員会議資料）



イ 講師との事前打合せ 令和4年8月30日（火）にオンラインで実施

出席者：NPO法人がんサポートかごしまの三好先生，2年部保健体育科教諭，養護教諭

内容・事前事後アンケートについて

- ・事前授業の実施について
- ・いのちの授業の流れについて
- ・配慮が必要な生徒について
- ・座席表について
- ・感染症対策の確認 等



【がん教育における配慮事項ガイドライン】

ウ 保護者への周知

がん教育の実施について，保護者へお知らせするとともに，家族にがん患者がいたり，がん家族を亡くしたりしている生徒の把握を行った。申し出はなかったが，配慮が必要な生徒がいる前提で授業を行った。

エ がん教育を実施するに当たっての配慮事項

事前授業を実施するに当たり，一般財団法人全国がん患者団体連合会が作成した「がん教育における配慮事項ガイドライン」を2年部職員へ周知した。以下は，学校におけるがんに関する配慮すべき10の基本事項（学習内容に関すること）より一部抜粋したものである。

- がんは，生活習慣がもととなっている病気（生活習慣病）とばかり強調することでがんにかかった人が，乱れた暮らしをしていた悪い人と誤解を与えることがあります。

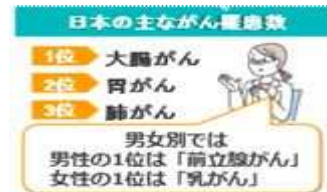
○ がん検診の効果を強調しすぎると、がん検診でなんでも見つかり、なんでも治るといふ誤解を与えることがあります。また、がんになった人は、がん検診を受けなかった悪い人という誤解を与えることがあります。

○ 「がんは不治の病である」「がんは簡単に治せる」など極端な情報の一方のみを伝えると誤解を与える場合があります。

○ インターネット、テレビ、本などで紹介されている情報は、正しいと鵜呑みにしてしまうことがあります。

オ 講師の方に聞いてみたい質問（上位）

- ・ がんになった時の気持ち
- ・ がんになって一番つかったことや大変だったこと
- ・ がんの治療法
- ・ がんと向き合う時、心の支えになったもの



【事前授業で使用したPP】

カ 担任や副担任による事前授業（令和4年9月14日開催）道徳1時間

県くらし保健福祉部健康増進課作成の副教材やパワーポイントを使用し、主にごんの知識について指導を行った。

《 具体的な内容 》

- ・ がんとは、がんの要因
- ・ がんの種類とその経過
- ・ 我が国のがんの状況
- ・ がんの予防
- ・ がんの早期発見・がん検診
- ・ がんの治療法
- ・ がん治療における緩和ケア
- ・ がん患者の生活の質
- ・ がん患者への理解と共生



【県作成の副教材】



【担任による事前授業の様子】

がんは日本人の死因第1位で2人に1人がかかる病気。いつがんになるかわからないし、がんだけではなく、いつ身近な人が亡くなるかわからないので、家族や友達を大切にしていこうと思いました。～9/14「いのちの授業」事前授業 生徒感想～

キ がんサポートかごしまの方々による

「いのちの授業」（資料5：指導案）

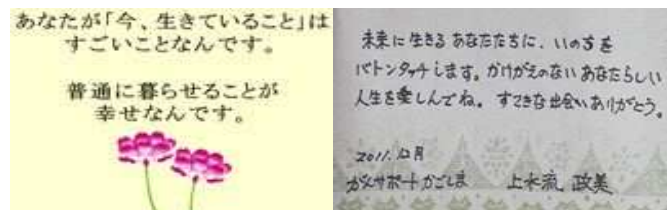
令和4年10月6日開催 学級活動1

当日は4人のがん経験者の方々に来校していただき、5時間目に1～4組、

6時間目に5～8組で授業に参加していただきました。導入では「今までに死んでしまいたいと思ったことがありますか？」との質問があり、各自が振り返った。展開では事前に提出して

いたがん告知時の気持ち、治療や支えになったものなど質問者を確認しながら、体験を話された。がんを克服し、元気で前向きな姿を見せてくださる講師がいる一方、がんで亡くなった上水流さんが「最期まで生き抜いた」話もあり、バトンを渡された自分たちはこれからどう生きていきたいかを考えさせた。

終末では、今後は「死ね」という言葉を使わない、悩んだときは相談すること等を約束した。



【いのちの授業で使用したPP】



【がん経験者によるいのちの授業】

6割の生徒が、上水流さんのメッセージが最も心に残ったと回答

ク 教室後のアンケート集計結果

Q3 がん検診を受けられる年齢になったら、積極的に検診を受けようと思う。

| 授業前 | | 授業後 | |
|--------|-------|--------|-------|
| そう思う | 66.2% | そう思う | 92.2% |
| そう思わない | 2.8% | そう思わない | 0% |
| 分からない | 31.0% | 分からない | 7.8% |

Q20 がんになってもいろいろなことに挑戦できる。

| 授業前 | | 授業後 | |
|-------|-------|-------|-------|
| 正しい | 50.7% | 正しい | 92.2% |
| 間違い | 11.3% | 間違い | 1.6% |
| 分からない | 38.0% | 分からない | 6.3% |

ケ 授業後の振り返り（生徒の感想）

- ・ 自分が思っていたがん患者さんとはほど遠く、とても元気そうな姿を見て、自分も勉強を頑張らないといけないなと思いました。
- ・ がんは年齢が低くてもかかる病気だということを知りました。また、予防するにはたばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすること等の方法があることを知りました。もし、自分が検診を受けられる年齢になったら積極的に検診を受けて、がんと向き合い、一日一日を大切に生活しようと思いました。
- ・ 友達と毎日話すことが当たり前ではないことに気付くと、これからも人を大切にしていけると思います。そして、いろいろなことを前向きに捉えて進んでいきたいです。
- ・ 「あなたはあなたのままで金メダル」という言葉が印象に残りました。「いつもありがとう」や「大丈夫？」といった言葉を大切な人にたくさん使おうと思います。
- ・ がんになってもいろいろなことに挑戦できることを知って、とても感動しました。僕もあきらめずにいろいろなことに挑戦して達成したいと思いました。
- ・ 今までは嫌な事があると、すぐにあきらめたり、投げ出したりしていたけど、これからはたった1つの命を大切に、人生を楽しんでいきたいと思いました。

コ 授業後の振り返り（教師の感想）

- ・ ご本人の直接の姿が目の前にあると、自分事として捉えられるし、「思い」が伝わってきました。また、生徒も自分の目を見て語られるので、心に響いていたと思います。本当に素晴らしい学びをいただき、教師としても一人の人間としても「生きること」を考えさせられました。ありがとうございました。
- ・ がんと診断されてから20年が経過し、今なお元気で頑張っているらっしゃる三好さんの姿に子供たちも勇気付けられました。「死にたくなったら、その場から逃げていい」という言葉に心を打たれた生徒も多かったようです。
- ・ 自分自身ががんの経験者であることから、伝えやすいこと、伝えづらいことがありましたが、外部講師から話をさせていただいてより伝わったのではないかと思います。
- ・ 自分や家族ががんになったとき、事前に授業を受けているのといないのでは、心理的なダメージに差があると思います。楽観視することはできませんが、知らないで、大きく悲観するという事態を避けられ、前向きにがんと向き合うきっかけになるはずで、素晴らしい機会を与えてくださり、ありがとうございました。

(2) 性に関する指導

ア 1年 性に関する指導

主題名「デートDV～私もあなたも大切に～」

実施日：令和4年11月15日（火）14:20～16:10 保健体育1 学級活動1

講師：助産師 森山多賀子先生

(ア) 教職員へ実施計画を職員会議で説明

(イ) 講師との事前打合せ

出席者：助産師 森山先生，1年部保健体育科教諭，養護教諭

内容・生徒の実態や発達段階の確認

・アンケート内容

・本時の流れ 等



【1年 性に関する指導 P P】

(ウ) 事前・事後アンケート～付き合っている2人の関係について～

| |
|---|
| ① 好きで付き合っているのだから、相手の言うこと（期待）に応えるのは当然 |
| ② 「バカ」とか「ブタ」とかひどい言葉で偏ついても、たいたりしなければ暴力ではない |
| ③ 付き合っていたら、相手のスマホ（携帯電話）を見たり、データを勝手に消したりしてもかまわない |
| ④ 付き合っていたら、いつもライン（メール）や電話で、お互いの行動を知っておくべきだ |
| ⑤ 付き合っていたら、彼（彼女）との約束は、何よりも優先すべき |
| ⑥ 付き合っている彼（彼女）が、自分以外の異性と話をすることを禁止するのは、愛しているから |
| ⑦ 付き合っている相手の髪型、服装に注文をつけるのは、愛しているから |
| ⑧ 付き合っていたら、デート代は男性が多く払うもの |
| ⑨ 好きな相手は、言葉にしなくても気持ちがわかるはずだ |

授業後はすべて×を付けた生徒が40%→77%へ

授業の前後で上記9項目についてアンケートを実施した。授業前は「付き合っていたら、デート代は男性が多く払うもの」等で○を付けた生徒が多かったが、授業後は性に関するバイアスに気付き、すべての項目に×を付けた生徒が40%→77%に増えた。恋人同士なら当たり前だと思っていることが、デートDVになり得ることを学んだ。

(エ) 本時

生徒は講話や動画、ワークシート資料等により、デートDVについて理解を深めることができた。また、展開の中で、遅刻してきた相手に対して、相手を責めるYOUメッセージではなく、自分の気持ちを言葉にするIメッセージでどのように伝えるかを考え、近くの生徒と意見交換する時間を設けた。

デートDVをなくすには、①暴力を認めない、②相手を尊重しながら自分の気持ちを上手に伝える、③困ったときは相談すること等を確認した。



【1年 性に関する指導の様子】

(オ) 生徒感想

【1年生感想】

- 被害者にも加害者にもならないように、自分の行動や発言を改めて見直したいと感じました。
- 恋人に限らず、人と関わっていくうえで、Iメッセージをなるべく使いたかったです。
- 1人で悩むのではなく、信頼できる友達や相談できる大人に相談しようと思います。
- 知らない人から写真を送ってと言われても返事を返したらダメだと分かった。

イ 2年 性に関する指導

主題名「生命尊重～心と身体の主人公になろう～」

実施日：令和4年11月16日（水）14:20～16:10 保健体育1 学級活動1

講師：鹿児島県助産師会 玉利恵美先生，上村晴美先生

(ア) 教職員へ実施計画を職員会議で説明

(イ) 事前打合せ

講師の玉利先生と養護教諭がFAXで連絡調整を行った。

(ウ) 本時

第二次性徴や胎児の成長，出産のお話，妊婦体験や胎児の心音や赤ちゃんの泣き声を聞き，命の尊さを学んだ。

自分の先祖を3代たどると14人，脈々と受け継がれた命を実感し，大切にする気持ちをもつことができた。



【2年 性に関する指導の様子】

(エ) 生徒感想

【2年生感想】

- 色紙に針で通された小さな穴が自分たちの最初の大きさ（受精卵）だと知り驚きました。
- 大豆くらいの大きさから十か月でおよそ3kgになることが不思議。自分が生まれるときも苦勞したと思うので，親に感謝の気持ちを忘れないようにしたいです。
- 妊婦さんと赤ちゃんが付いているもの（マタニティマーク）を見かけたら，席をゆずったり，声を掛けたりしたいです。
- 赤ちゃんやお母さんを見守ってくれる「助産師」という職業も知ることができて良かったです。今回でもっと命を大切にしたいと思いました。



ウ 3年 性に関する指導

主題名「責任ある行動～性に関する3つの大切なこと～」

実施日：令和4年11月18日（金）10:45～12:35 保健体育1 学級活動1

講師：NPO法人Rinかごしま 山田健二先生，串間直紘先生

(ア) 教職員へ実施計画を職員会議で説明

(イ) 事前打合せ

講師の山田先生と養護教諭が電話で連絡調整を行った。

(ウ) 本時

デートDV，性の多様性，エイズを含む性感染症の三つに

ついて学んだ。アルファベットの一つ一つの意味を分かりやすく解説してくださり，カミングアウトされたときの返答や電話相談等も紹介してくださった。



【3年 性に関する指導の様子】

(エ) 生徒感想

【3年生感想】

- 「知る」ということも1つの対策だと思います。DVの加害者にも被害者にもならないよう「YES」「NO」を使い分けたいです。
- 自分もスマホを持っていて，人とつながれるアプリも入っているので，知らない人との連絡は慎重にしようと思いました。
- LGBTの方々がカミングアウトしやすい環境づくりが大切で，鹿児島県でも少しずつ取組がされていることを知り，興味をもちました。
- 性感染症は私にまだ関係ないと思っていましたが，危機感をもつことが大切だと思いました。
- 今回の話を聞いて，安心したというか，今まで以上に自分のあり方に自信ができました。

(3) 3年 血液講話

実施日：令和4年11月30日（水）14:20～15:10 総合的な学習1時間

講師：学校薬剤師 濱畑 悠先生

小児がんを患った子どもが血液治療をする話を通して、血液の働きや命の大切さを指導してくださった。

【生徒感想】

血液は事故や手術のときにだけ使うものではなく、常に体内にあり、他にも運んでいる液で、現在血液が足りないと気づいたら、血液は誰かの命を救うために不可欠な液体を思いました。



【血液講話の様子】

(4) 家庭との連携（仮説Ⅲの検証としての取組）

ア 学校保健委員会 令和4年11月15日（火）

今年度第2回学校保健委員会は、1年の性に関する指導をPTA役員、保体部の方々が参観する内容であった。授業終了後、助産師の森山先生から保護者への助言をいただいた。



【学校保健委員会の様子】

【保護者感想】

- 家庭でも考え、話し合う問題だと改めて感じました。これから成長していく子どもたちが大人になるまで「知らない」より「知って考えていく」ことが大切だと思いました。
- 子どもの交友関係に関心を持ち、子どもが悩んでいないかよく観察していこうと思います。
- 話の聴き方や姿勢など相談しやすい環境をつくるのが大切だと思いました。
- 家庭でもなるべくメッセージで話ができればいいと思いました。

イ 保健便りや学校保健委員会便りによる啓発

学校で実施したがんや性に関する授業内容、生徒感想等を保健便りや週報等を通じて家庭へお知らせし、親子で命や性について語ってもらう機会とした。

また、学校保健委員会の出席者は一部であるため、事後に全保護者へ学校保健委員会便りを発行し、講師の方からのアドバイスや出席者の感想等を掲載し、改めて子供の健康について考えてもらった。



【令和4年保健便り11月号】

6 成果と課題

(1) 成果

ア 以下のような手順で、外部講師と事前に生徒の実態や留意点について打合せを行い、講師の先生方が動画やパワーポイント等教材を工夫してくださったことで、生徒の興味・関心が高まり、より成果を上げることができた。

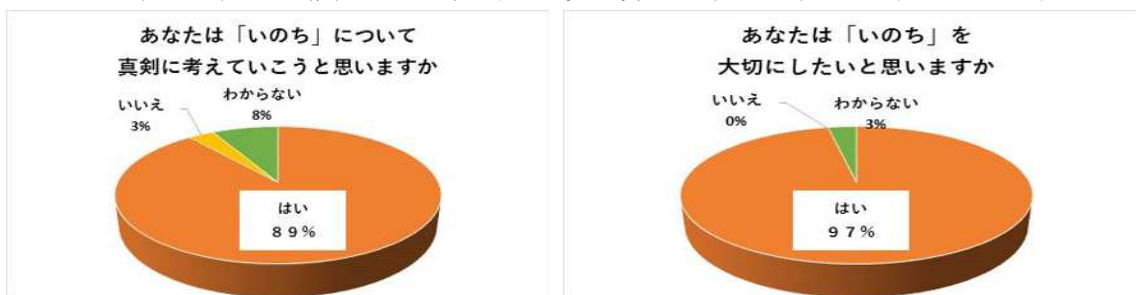
手順：企画 ➡ 打合せ ➡ 準備 ➡ 講師を活用した授業 ➡ 実施後の評価

講師の言葉には重みと説得力があり、特に「いのちの授業」では、生徒ががん経験者の話に聞き入り、心情を共感的に理解することができていた。

イ アンケートの結果や授業後の感想等から、多くの生徒はがんや性に関する基本的知識が身に付き、健康と命の大切さについて主体的に学び、自己の生き方を見つめることができた。

また、がん予防を自分事としてとらえ、生活習慣を見直す等認識を深めることにつながった。

- がんは身近な病気だと思う 90.1% → 96.9%
- がん検診を受けられる年齢になったら、積極的に検診を受けようと思う 66.2% → 92.2%
- がん患者への差別や偏見のない社会の実現に努めようと思う 90.1% → 95.3%



ウ 2年生は「いのちの授業」を受け、自他の生命の大切さを自覚しながら、その後、性に関する指導「生命尊重」を学習したので、より内容が伝わりやすかったのではないかと考える。また、3年生も性に関する指導後、近い時期に血液講話を実施したことは、関連性をもたせやすく、学習効果を高めたと思われる。

エ 授業後の保健便りや学校保健委員会等で、保護者の理解や関心が高まりつつある。

- 家族と「いのち」について話すことはありますか。はい32.4% ⇒ 40.6%
- お子さんに「思いやりの心」は育ててきていると思いますか。
1学期 3.29 ⇒ 2学期 3.33
(学校評価 0.04ポイント上昇)



(2) 課題

- ア 新学習指導要領を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、指導の在り方を工夫する。一方的な知識の伝達にならないように、授業の中では自分を振り返らせたり、意見交換させたりする活動の場面もあったが、今後は更に自分の意見をもたせ、生徒同士が対話する中で、新しい考えに気付かせる等の取組を取り入れる。
- イ 教科横断的視点で、保健体育科、特別活動、総合的な学習の時間、道徳等、相互に関連付けた指導を行い、カリキュラム・マネジメントを確立する。
- ウ タブレットを活用した事前事後アンケートの集計を行う。
- エ 配慮が必要な生徒への個別指導を検討する。
- オ 校内研修を充実させ、全教職員で取り組める体制づくりを図る。
- カ 生徒の主体性を生かした生徒保健委員会等の取組を推進する。
- キ 学校保健委員会において、保護者による協議時間の確保や心肺蘇生法・AED講習を検討する。

7 おわりに

中学生は、比較的健康的に毎日を過ごしており、健康に係る学習課題を他人事として捉えていることが多い。そのため、自分事として考え、認識を深められるような手立てが求められる。健康教育は決して、単発の授業だけで理解が深まったり、態度が身に付いたりするものではなく、学校での繰り返しの指導や家庭での声掛け等が不可欠であり、学校と家庭が絶えず連携していく必要がある。また、地域や関係機関の協力も得ながら、今後も生徒の心身の健康づくりを推進していきたい。